

# 平成 30 年度 学校評価書

幼保連携型認定こども園  
常葉大学附属たちばな幼稚園  
園長 大石 成伸

## 1 経営の重点にかかわること

学校教育目標 美しい心、よく動く体、豊かな感性と社会性を持った子ども  
目指す子どもの姿 明るく生き生きとした子  
がんばる子  
思いやりのある子  
情操豊かな心を持つ子

評価 A・・・達成した B・・・達成に近づいたが改善は必要である C・・・改善が必要である。

学年	評価項目 (各学年の指導・取り組みの重点等)	自己評価	学校関係者評価委員会の評価		
0歳児	◎ひとりひとりの生活のリズムを大切にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園した時期がそれぞれ違うので、一人ひとりの様子を見ながら十分時間をかけて生活するようにした。まだ言葉を話さない子ども達なので、気持ちを汲みとるように気をつけたが、十分に応えられなかった時もあると考えられる。</li> <li>・今後も、安心・安全で楽しい幼稚園となるようにしていきたい。</li> </ul>	B	0才という事もあり、先生方も色々大変なこともあるかと思いますが、これから年度を重ねていく中で学び、改善していくことが必要だと思います。	B

一歳児	◎ひとりひとりの生活のリズムを大切にし、 機嫌よく一日を過ごす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々の成長、発達、保育形態に合わせて丁寧に生活を援助していくようにした。そうすることで、子ども達の成長を様々な視点から見守ることができ、次の援助につなげていくこともできた。</li> <li>・ 入園時は保育者の担当制をとることで、生活への安心感や保育者との信頼関係ができ、園生活に早くなれることができた。</li> <li>・ 保護者へのフォローも大切にし、家庭と協力しながら保育することができた。</li> </ul>	B	保育者の優しさや、態度が良く、 子どもの姿を見ていると、明るく笑顔が生まれて気持ちが安定しているように思いました。	B
二歳児	◎ひとりひとりに合った生活のリズムに添って 一日を過ごす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人に合わせて、生活リズムを作り少しずつ全体で合わせていった。毎日の生活リズム、食事や午睡などなるべく同じ時間にし、ペースをくずさないようにした。</li> <li>・ 保育時間が長い子が多いので、一人一人とゆったり関わられるように心がけていった。</li> <li>・ 基本的生活習慣の自立促していけるように日々の生活をしていった。</li> </ul>	B	個々の成長のペースに合わせた 保育が出来ているように思います。	B

満 三 歳	<p>◎幼稚園に慣れる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな遊びを楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園時期はそれぞれであったが、安心して園生活を過ごせられるようにしていく。個々の様子に応じて焦らずに見守っていくようにしてきた。</li> <li>・あそびを通して教師とも信頼関係を築いてきた。教師から友達へと興味もうつついき、友達と遊ぶことの楽しさを感じられるようになってきた。</li> <li>・二歳児クラスの友達との交流を持ち、相互で遊んだり、散歩に出かける等同じ経験を積み重ねてきた。このことを大事にしながら、進級に向けても不安を取り除けるよう交流を深めてきた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者のかかわりが上手で、落ち着いた雰囲気を感じました。</li> </ul>	B
-------------	--	---	---	---	---

年少	<p>◎安心して幼稚園で過ごす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園を好きになる</li> <li>・好きな遊びをのびのび楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月当初は、安心してクラスで過ごせるようにゆったりと過ごし、生活習慣を身につけることを心掛けた。</li> <li>・今年度から、他学年と同じ階になったことでたてわりに関わりが日常的に出来るようになり、日々刺激を受け、あそびが充実していった。</li> <li>・運動会や発表会も同様に、年中、年長児のごっこ遊びに誘ってもらえたことで、自然と人前で発表をすることの楽しさを身につけられたことが子ども達の自信にもつながっていった。</li> <li>・廃材でのあそびも、日々経験を重ねると共に、他学年の模倣をすることで、徐々に工夫やアイデアがみられるようになり、たてわりの関わりが制作への意欲や、大きな成長へとつながっていったように感じる。</li> <li>・3学期にはクラスの友達とのつながりが強くなり、共に遊ぶ喜びを十分に味わうことができた。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく元気いっぱい、クラス雰囲気づくりがよかったと思います。</li> <li>他者の存在に気付いてまだ充分とはいかなかったと思いますが、思いやりが出てきているように感じました。</li> <li>・子ども達が、自然と上のお姉さんやお兄さんと関わりながら成長している様子が見えました。</li> <li>・他の学年と同じ階になったことでの良い影響が出ていることを感じた。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">A</p>
----	--	--	---	--------------------------------------

<p>年中</p>	<p>◎友達との生活を楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に過ごす心地よさを味わう</li> <li>・園生活のルールに気付く</li> <li>・自分で好きな遊びを見つけ充実感を味わう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達とイメージを共有したり、役割分担をしたり、自分たちで考えて工夫をしながら遊びを進めることができるようになってきており、その中でかかわりが深まっていることが感じられる。かかわりの中でまだ自分の思いを押し通そうとしたり、自分の意見を相手にうまく伝えられなかったりする場面もあるが、どうするべきかを一緒に考えていくことで、少しずつ相手の思いに気付いたり、話し合いながら考え合う姿が見られるようになった。</li> <li>・集団生活をする上でのルールも身につけてきているが、まだ切り替えがうまく出来ない子や、自分で気付く子が難しい子もいるので、引き続き話を聞くことの大切さを伝えたり、周りを見て自分で考えて行動することができるよう援助していきたい。</li> </ul>	<p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>仲間意識を感じました。下に年少、上に年中とはさまれてと落ち着かない気持ちもあったかもしれませんが、周りを見れる仲間認められるような行動する姿を感じました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活発表会では、年中さんがこんなにもしっかり発表できるんだと関心しました。先生方が、子ども達にあった発表を工夫して組み立てている感じが見受けられてよかった。</li> </ul>	<p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>
-----------	---	--	---	--

<p>年長</p>	<p>◎友達と夢中になって遊び、認め合う気持ちを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あそびを通して友達の思いを受け入れようとする</li> <li>・集団で遊ぶ事の楽しさを感じる</li> <li>・人の話を聞こうとする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な行事や活動・遊びを通して、友達の良さや努力を認め合える様になってきた。その中で、仲間と力を合わせる楽しさや達成感をたくさん味わうことができたと思う。</li> <li>・リレーやドッチボール・鬼ごっこの遊びが大好きで、時間のある時は、必ずと言って良い程繰り返して楽しみ、クラス・学年の団結や集団で遊ぶ楽しさと共に、2クラスでも常に混ざり合って遊んできた。</li> <li>・相手の顔を見て話を最後まで聞くことの大切さは、年間を通して伝えてきた。少しずつではあるが、一人一人が意識できるようになってきたと思う。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な行事や活動に年長らしさを感じました。厳しさの中に優しさがあり規律もあり関心しました。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">A</p>
-----------	--	---	--------------------------------------	--	--------------------------------------

## 2.各指導部等にかかわること

評価項目（各指導部等のねらい・取組等）		自己評価		学校関係者評価委員会の評価	
1 安全・保健管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎子どもの安全確保と緊急時の対応を組織的に行う</li> <li>◎定期的な避難訓練の実施</li> <li>◎個人情報の管理を確実に行う</li> </ul>	<p>〈現状〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めに緊急時マニュアルを作成し、事故・災害時の対策を徹底していった。保育中の事故や怪我は起こったが、その後の対応を迅速に行えるよう心掛けた。しかし、職員が増えた事もあり、全職員で周知していくことが、難しく課題もある。事故が起こりやすい場所なども把握し、改善していく必要がある。</li> <li>・アレルギーについても年度初めに確実に把握できるようにし、災害時にアレルギー表一覧をすぐに取り出せるようにしたり、アレルギー対象者がすぐにわかるような工夫した。</li> <li>・避難訓練の年間計画を計画し、定期的に行っていった。想定もその都度変え、防災意識を高めていけるようにした。乳児が入ったこともあり、今年度は、乳児の活動に無理のない時間を意識したが、少しずつ新たな想定も考えていく必要があると思う。</li> <li>・職員同士で個人情報の管理を徹底して取り組んできた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害はいつ起こるかわからないので、あらゆる場合を想定して訓練することが大切だともおもいます。</li> <li>・アレルギーのプレート等工夫し全職員で周知できるよう改善していることがいいと思います。</li> </ul>	B
2 運営組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎報告・連絡・相談を確実に、円滑な組織運営に努める</li> <li>◎職員相互の信頼関係を大切に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者からの問い合わせ、面談等に対し、謙虚に受け止め職員で共有している。</li> <li>・非常勤を含め、職員が増えたことにより、知りえた情</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の管理等、引き続き気を付けて対応して欲しいです。</li> </ul>	

	する	<p>報が流出することのないように十分に配慮している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年間、園全体で子ども様子を見守り、変化等の情報も伝え合い、チーム保育を心掛けている。他方面からの意見も受け取り、話し合いながら情報共有が出来るような関係を築くようにしていた。</li> </ul>	A		B
3 研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎進んで園内外の研修に積極的に参加し、教育向上に努める</li> <li>◎研修テーマの具現化を職員一人ひとりが図る</li> <li>◎記録を通して、より深く子ども理解に努める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児クラスが新しくスタートしたこともあり、乳児保育についての学びを深め、乳児期からの育ちの連続性を長期に見通し、生きる力の基礎を育てる保育とは何かを考えていきたいという思いがあり、「生きる力を育てる保育の連続性」を大きなテーマとし、3年継続で研修を進めていくこととした。</li> <li>・今年度サブテーマを「乳児保育を知る」とし、乳児クラスの実践報告を受けたり、実際に保育に参加したりして乳児保育を学んでいった。今年度の学びを次年度にも繋げていけるよう、引き続き研修を進めていきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンネリ化しないように向上心を持っていただけたらと思います。</li> </ul>	B
4 家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎家庭との連絡を密にし、保護者との信頼関係を大切にする</li> <li>◎未就園児教室や園庭開放を通して、地域の子育て支援に力を入れていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定こども園に移行するあたり、前年度に保護者への説明を重ねたが、実際スタートしてみると、様々な改善点が出てきたので戸惑わせてしまった。</li> <li>・意見ボックスができ、保護者の意見が出しやすくなった。保護者の求めていることを知ることが出来たため、改善できるところは検討した。</li> <li>・ブログ等で保育の様子を伝えていったことで、教</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見ボックスへの対応の仕方がとても良いと思う。</li> </ul>	B



		<p>育・保育をより理解していただくことにつながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定こども園初年度という事もあり、園運営を軸にしたため、未就園教室の内容について深く考えることが出来なかった。次年度は、地域の子育て支援につながるよう未就園児教室の充実をはかりたい。</li> </ul>			
5 学園内連携	<p>◎幼稚園・小中高校・短大・大学との連携を深め、保育の質を高める</p> <p>◎両園研修での情報交換や、31年度実践学会での両園発表に向け、記録をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両園の交流を大切にしてきた。互いに行き来をして遊びを通して交流を深めてきた。</li> <li>・橘中学、高校生は生徒が来園をし、子どもと関わる機会を設けた。実習に来る前に講話をし、保育の仕事等学んでもらうようにしていった。</li> <li>・近隣中学・高校生の職場体験も積極的に引き受け、保育の仕事への興味を高めてもらうようにした。</li> <li>・短大、大学からは実習の受け入れをはじめ、子ども理解への学び、研究等を深められるよう開放していく。</li> <li>・両園の研修は年3回行った。情報交換をする中で、課題を見出し、改善できるところは見直しを図り努めてきた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども園としての情報交換を適切にしながら、より良い園を目指して行ってほしいです。</li> </ul>	B